

ミドリラップムシ共生藻の特性

佐藤 江美¹, 柴田 あいか², 楠岡 泰³, 今村 信孝⁴

(¹立命館大・生命科学, ²立命館大・理工, ³琵琶湖博物館, ⁴立命館大・薬)

【要旨】 ミドリラップムシはクロレラ様の緑藻と共生を成立させている繊毛虫だが、ミドリゾウリムシのように詳細な研究は行われていない。今回は日本産ミドリラップムシを用いて、共生藻の単離、共生藻を持たない宿主の作製を検討すると共に、共生藻のクロロウイルス感染性等について調べた。単離したミドリラップムシ共生藻は硝酸を窒素源として利用可能と考えられ、また日本産ミドリゾウリムシ共生藻に感染するウイルスは、ミドリラップムシ共生藻には感染できなかった。暗所での培養により共生藻の除去が行え、再感染について検討中である。